



観光地点検

奈良県立大学地域創造学部講師
岡本 健

景観をカードゲーム化・総選挙！ 市民から個人的「好き」引き出す

「石山緑地をビルドするか、それとも、ファイターズ優勝パレードか…。国際芸術祭を催すのもいい。そろそろ風致地区指定をしておこうか、いや、ここは市街化調整区域か…」なんの話だろう？これ、実はカードゲームの話なのだ。

札幌市の取り組み「好きです。さっぽろ（個人的に。）」が生み出した「景観まちづくりカードゲーム☆景カード」。カードゲームを楽しみながら景観や都市計画について考えるきっかけを提供するという試みである。

今回はこの取り組みを中心に、札幌で行われている手法から、観光資源としても重要な「景観」について考えてみたい。

景観良し悪し市民が決定

美しいと言われる景観があれば、醜いと言われる景観もある。新しく巨大な建物が建てられる時や、景観に賞を与える時などに議論になるトピックだが、景観の美醜は誰によって決定されるものだろうか。専門家だろうか、あるいは、行政だろうか。

景観に賞を与える時、これまで一般的に専門家などで作られる委員会が組織され、そこで議論が行われ、美醜や優劣が決定されただろう。景観の価値は「偉い人」が決めるもの。市民それぞれが感じている「好き」「嫌い」は反映されない。この常識を覆したのが札幌市市民まちづくり局都市計画部地域計画課による「市民主体の景観資源選出事業の取組」である。冒頭に紹介したカードゲームも一連の取り組みの一つなのだ。



市民でにぎわう北海道大学構内のイチョウ通り

市電や大喜利など活用

この一連の手法は、「好きです。さっぽろ（個人的に。）」運営委員会」によって実施されている。2012年度には市民に向けて、「あなたの好きな札幌の場所や風景などを募集」し、パネル展やトークイベントを開催。トークイベントでは、建築やま

ちづくりといった、従来景観について論じてきた分野だけでなく、編集やデザイン、そして、観光の観点からも議論が行われた。

13年度には取り組みが本格化していく。札幌の市電（路面電車）の中で「景観」や「まち」「札幌らしさ」を語り合うワークショップ「井戸端会議 on市電——市電に乗ってこれからの景観の話をしよう。」を開催し、地図とヒントをたよりに、制限時間内にチェックポイントをたくさん回って得点を競う「どサンこパスdeまちめぐりロゲイン」を行った。ロゲインとは、オーストラリア発祥の得点制オリエンテーリングのようなスポーツ競技であり、これをアレンジして札幌で実施した。どサンこパスという、札幌市交通局が発行している土、日、祝に使える市電専用の一日乗車券を用いている。

さらに、司会者が出したお題に応じて、その回答のうまさを競う「景観大喜利——景観であそぼう！」というイベントも開催した。

市電やオリエンテーリング、大喜利といった様々なメディア

を活用して、市民に景観について考える契機を提供している。

これらの活動と共に作られたのが「景観まちづくりカードゲーム☆景カード」である。カードゲームと聞いて「なぜ？」と感じる人も多いのではないだろうか。実は、小中学生や若者層を中心に、トレーディングカードゲームの愛好者は多い。『マジック：ザ・ギャザリング』『遊☆戯☆王』『ポケモンカードゲーム』などだ。大学で教えていても、学生の中にカードゲーム愛好者がいることが多い。

ヨッピンセンターや児童会館、生涯学習センター、札幌駅前通地下歩行空間などに投票所が設置された。

その結果選ばれた景観を活用してカードゲームが作られた。このカードを使って実際に遊んでみる「お試し会」も数度開催された。

実際に私もいただいた「景カード」で学生と遊んでみたが、ゲームのルールを学ぼうとしているうちに、都市計画的な視点が身につくことがよくわかった。また、こうしたカードゲーム文

あると考えることができる。一般に景観の良し悪しについて考えるのは、賞を与える時や景観が大きく改変される時だ。普段から景観を意識して生活をする習慣を持つ人はそれほど多くないだろう。今回取り上げた取り組みは、様々な方法で、景観に対する無意識を意識化している。

市民それぞれが自分事として景観をとらえ、自分の好きな景観に目を向け、評価していくことで、観光資源としての札幌の景観も、より良いものになっていくだろう。

今後の課題

札幌市の「市民主体の景観資源選出事業の取組」の多様な活動には目を見張るものがある。

「市民主体」に徹した活動は手間がかかり敬遠されがちだが、ここまでやってこそ「市民主体」と言えるだろう。広報も大してせず、人数も集まらない意見交換会という名の説明会をやるだけの「市民参加の促進」はいただけない。

今のところ札幌市民がこの取り組みの対象のようだが、札幌市民以外でも札幌市の景観に興味を持っている人はたくさんいるはずだ。札幌を愛する旅行者も景観の構想に巻き込んでしまうというのはどうだろう。今後も、札幌市の景観を大切に思う人々によって景観が構築されていく仕組みを展開して行っていきたい。

■



景観総選挙で選ばれる景カード

「景カード」はその制作過程でも、徹底的に個人的な「好き」を大切にしている。まず、「個人的に好きな場所や風景」を市民から募集する。その後、「さっぽろ景観総選挙」によって上位48の得票数の景観が選ばれた。この投票については、移動投票所システムを採用。シ

化に習熟している若い学生にとっては、非常に親和性の高いメディアのようで、若者や小中学生に景観や都市計画について考えてもらうツールとして優秀だ。

景観を「自分事」にする

これらの取り組みは、景観を市民の「自分事」にする効果が